

5月12日、1月の大統領選挙で7回目の当選を果たしたムセベニ大統領の就任式がカンパラの中心部コロロにあるセレモニアル・グラウンド(記念式会場)で執り行われました。式典参列のため日本から外務省の大西洋平政務官が派遣されました。

就任式に先立ちムセベニ大統領は前日の11日夜カンパラ郊外のホテルで主に外国からの賓客を対象に大統領主催の夕食会を開催しました。大西政務官始め日本代表团、南スーダンのキール大統領、ケニアウッタ・元ケニア大統領なども参加しました。会場はビクトリア湖からの風が吹き抜ける涼やかな環境です。比較的にリラックスした雰囲気でもセベニ大統領も娘さんとともに参加。派手な歌舞音曲などを省いた比較的に簡素なものでしたが外国からの賓客をもてなす大統領の暖かい心遣いが感じられた夕食会でした。夕食会の時刻にはカンパラ上空でドローンによる大統領就任式のお祝いが行われました。



[夕食会の様子]

就任式当日式典会場は雨季末期に関わらず快晴に恵まれました。ウガンダ全国から多数の支持者も参加しウガンダらしい熱気に包まれた式典となりました。交通規制が会場周辺に行われましたが市内は人と車両で一杯です。

式典では強い日差しをものともせず UPDF(ウガンダ国民防衛軍)の精鋭が行進を披露します。上空からは空軍の軍用機がデモンストレーション飛行。さらに空挺部隊の降下も披露されました。



[式典の様子]

ムセベニ大統領は厳かに就任の宣誓を行った後、国民に向けて演説を行いました。演説では大統領が就任して以降、どのようにウガンダの社会、経済が変化して国民の生活が向上してきたかが語られました。大統領がよく引用する数字ですが 2013 年にウガンダ国民の 32%しか現金経済に参加していませんでした。現在では 67%が参加しています。残りの 33%は、未だ現金を使っていない生活を送っているわけですのでより多くの国民を巻き込むことが新しい政権のベンチマークの 1 つとなります。経済の高付加価値化。かつての植民地時代ウガンダは原材料を輸出するばかりで本当の利益を国民が受け取っていないと大統領は常々訴えています。ウガンダで加工し輸出を行うこと。農業の発展。ICT の活用。これらは大統領が選挙戦で、またそれ以前よりずっと訴えてきたことです。大統領はもはや言い訳はすまい、と次の 5 年でさらなる発展を目指す決意を高らかに宣言しました。同時に NO MORE SLEEP と国民に呼びかけ「富の創造」と「雇用の創出」に邁進するよう呼びかけました。

就任式では南スーダンのキール大統領、タンザニアのハッサン大統領、ブルンジのヌダイシミア大統領など近隣諸国から大統領が顔をそろえました。ケニアアッタ・元ケニア大統領、オバサンジョ元ナイジェリア大統領など名だたる元リーダーも祝福に駆けつけました。長く国のリーダーを務めるムセベニ大統領の面目躍如といったところでした。

大西政務官はこの機会にナバンジャ首相との会談を行われたほか就任式直後に大統領を表敬、45分近く会談を行われました。今後のウガンダ・日本関係を含めて幅広く意見交換され「就任式外交」ともいうべき貴重な機会となりました。



[ムセベニ大統領と大西政務官のバイ会談]

大統領就任式は昨年より、あるいはそれ以前より長く続いてきました新大統領選出のプロセスの1つの区切りを意味します。5年を任期とする新しい政権が発足しました。大統領が力強く宣言したようにさらなる発展の5年となることを期待したいと思います。(以上)